

# もも管理特報 No. 1

令和5年2月28日  
みな穂もも研究会  
みな穂農業協同組合  
富山県新川農林振興センター

## 1 生育状況

- ・「あかつき」の開花始めは、平年に比べ1日早い4/9頃と予測される。
- ・新潟気象台発表の1か月予報（2/23発表）では向こう1か月の気温は平年に比べ高く、特に期間の前半がかなり高くなると見込まれている。
- ・3か月予報（2/21発表）の4月の気温は平年並み〜高いと予報されており、開花時期は早まる可能性がある。

果樹研究センター開花予測（2/24時点）

年次	あかつき	
	開花始期	開花盛期
R5年(予測)	4/9	4/12
R4年	4/9	4/11
平年	4/8	4/11



果樹研究センター  
最新の開花予測  
※3/6から公開



気象庁  
2週間気温予報  
(富山県)



気象庁  
1ヶ月予報  
(富山県)

## 2 病害虫防除

### <防除のポイント>

- ・薬剤散布は、かけムラが発生しないよう、①剪定時に枝の重なりを解消したうえで、②園の中で病害虫の発生が多い樹や場所を事前に確認してから、③300ℓ/10aを確実に散布する。
- ・特に、カイガラムシ類の常発園や前年、縮葉病が多発した園では、重要防除時期にあたる発芽前（休眠期）防除を確実に実施する。
- ・また、カイガラムシ類の常発園では、枝幹に寄生しているカイガラをタワシ等で削り落とし、密度を下げた後から薬剤を散布すると効果が高い。

### 薬剤防除

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率	100ℓ 当たり 薬剤量	10a あたり 散布量	防除実施日 (自己記入)
1	3月15日頃まで (発芽前)	縮葉病※1	石灰硫黄合剤 または ホーマイコート※2 展着剤 マイリノー	7倍  50倍 20,000倍	14ℓ  2,000g 5cc	300ℓ

※1：縮葉病対策としてこれらの剤を発芽前までに散布できなかった場合は、ドキリンフロアブル（800倍 発芽前～開花直前まで 5回以内）を散布する。

※2：石灰硫黄合剤による肌のかぶれや、器具の損傷が激しい場合はホーマイコートを利用する。ただし、石灰硫黄合剤は、胴枯病、黒星病、カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病害虫にも登録があるが、ホーマイコートの登録は、縮葉病のみ。

コスカシバ対策：コスカシバの虫フンを見つけ次第、被害部を小刀等で削り取り、幼虫を捕殺する。

・使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

### 3 今後の管理

#### <ポイント>

- ・（着果管理）開花期の低温による結実不良のリスクを減らすため、**摘蕾、摘花で除去する花蕾の量は、全体の70～80%程度**とする（一発強摘蕾：90%摘蕾は極力控える）。
- ・（着果管理）「川中島白桃」、「なつき」等、花粉を持たない品種の摘蕾は、軽め（50%程度）で行う。
- ・（着果管理）葉芽を傷つけないように注意する。
- ・（着果管理）1～2年目の苗木、成木（8年生以上）の主枝や垂主枝先端、伸ばしたい枝の先端50cm程度は、すべて摘蕾する。
- ・（苗木・幼木）成木に比べ根量が少なく土壌水分の急激な変化に弱いため、株元マルチや3月、4月であっても気温が平年より高く無降水日が続く場合はこまめなかん水を行い、初期生育を確保する。
- ・（苗木・幼木）主枝の伸長を促進させるため、発芽期頃に化成肥料を追肥する。

### 4 農作業安全～いのちを守る作業安全は全てに優先する～

- ・農作業で安全を確保することは農業経営を続けていくうえでの要となります。
- ・作業の安全を確保し事故を発生させないため、日々の作業の中で危険な場所や作業を把握したうえでその情報を作業員で共有し、必要な対策を講じましょう。
- ・万が一事故が発生した場合は、被害を最小限に抑え速やかに作業を再開できるよう、日頃から対策を検討し備えましょう。
- ・今シーズン初めて使う機械（SS、乗用草刈機等）は、使う前に一度点検を行い、安全に作動することを確認してから使いましょう。